

1F・M2F・2F まちなかりビング・小会議室・中会議室

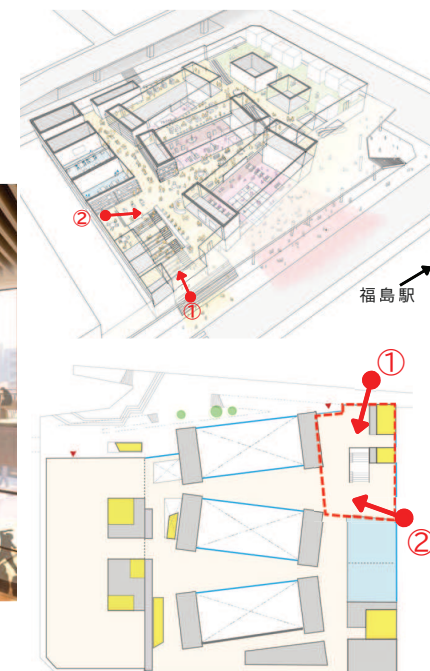
賑やかな交流と滞在の場



▲1F まちなかりビングのイメージ(視点:①)



▲2F まちなかりビングのイメージ(視点:②)



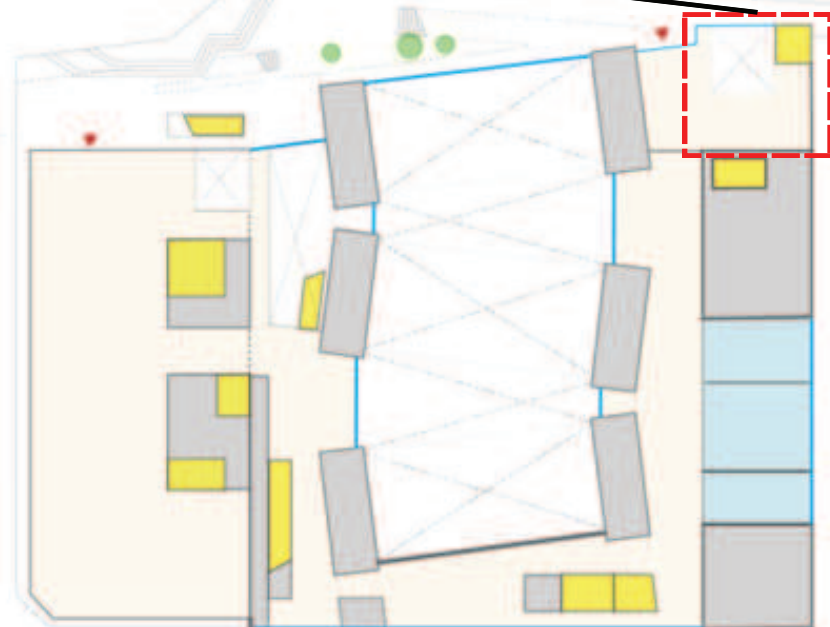
ポイント

- 座れる大階段を設け、気軽に滞在したり、交流したり、発信したりできる場をつくる。
- くつろぐ、学ぶ、展示に触れるなど、思い思いに過ごせる場を用意。ヒト・モノ・コトがゆるやかにつながる空間として計画。

2F まちなかりビング・中会議室

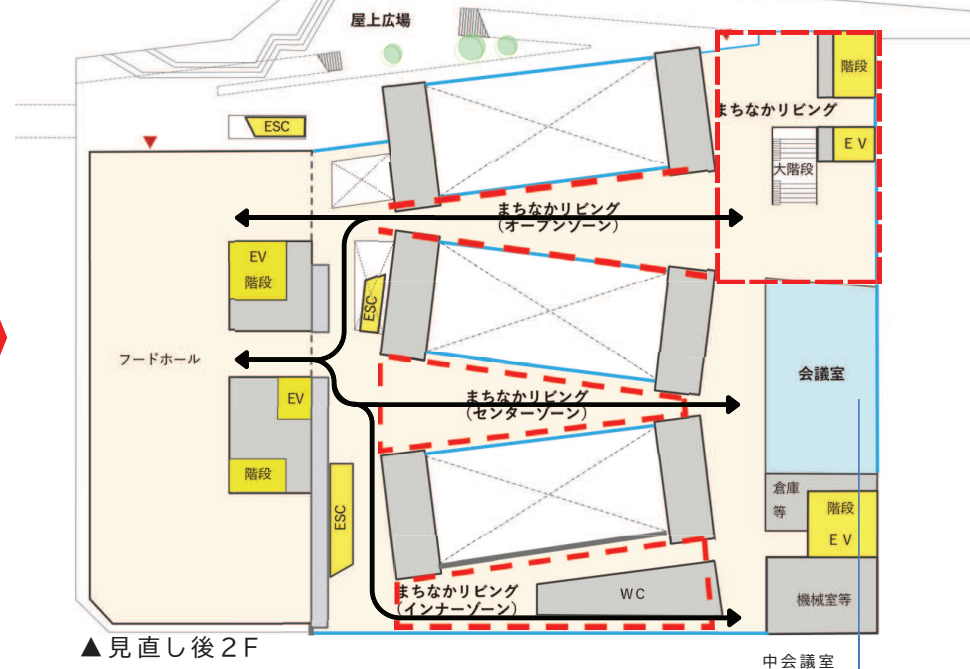
見直し前

まちなかりビング



▲見直し前2F

見直し後



▲見直し後2F

変更点

- 2Fを中心にまちなかりビングの空間を拡張。
- 市民の日常利用スペースの強化と、民間エリアとの回遊性を向上。

2F まちなかりビング・中会議室

“知る”・“試す”・“見てもらう”ができる場所



▲ 拡張したまちなかりビングの日常イメージ
(視点:①オープンゾーン)



▲ 拡張したまちなかりビングの日常イメージ
(視点:②センターゾーン)



- ポイント
- 文化・学びの場や展示などのコンテンツを用意し、日常的に滞在できる空間へ。
 - 中会議室は、工作や映像制作など、興味をもったことを試せる場としての活用も想定。
 - 民間エリア(フードホールやSHARE LOUNGE[®]など)の商業機能と連動可能。

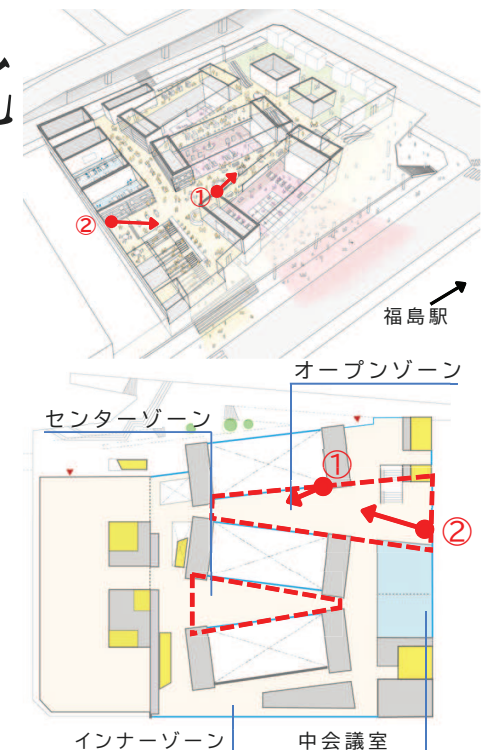
2F まちなかりビング バンケット会場にも変化



▲まちなかりビングのバンケット利用イメージ
(視点:①)



▲まちなかりビングのバンケット利用イメージ
(視点:②)



変更点

- バンケット機能は前計画の大会議室から、拡張したまちなかりビングにて実施できるよう設計し直すことで、費用を削減しながら、機能は維持。
- 見直し前の時点で想定していた1Fホールのバンケット利用も引き続き可能。